

すぐ泣かない



北小2年 小河原 若菜

わたしががんばりたいことは「すぐ泣かない。」
おかあさんに「いつでも、すぐ泣かないほうがいいよ。」と言われました。
わたしは、思いました。「そうか。そうだったんだ。すぐ泣いちゃだめなんだ。」と。
ことは、「すぐ泣かない」ということをがんばります。
(現在 三年)

中学生になったら



南小6年 網野 祐希

私は、四月から中学生になります。制服を着て学校に通うことを考えると、わくわくしてき

ます。気持ちを新しくして、一からのスタートです。どんなことがあるかわからないので、不安なこともあるけれど、友達と仲良くして、楽しく過ごしたいです。

一月に、中学校の理科の先生が出前授業に来てくれて、これから習う勉強を教えてくださいました。その時に、「小学校で習ったことを使いながらやっていくんだなあ」と思いました。だから、小学校で習ったことを忘れないようにして、勉強をがんばりたいと思います。
あと、私は本を読むのが好きなので、早く中学校の図書館で本を借りてみたいです。むずかしい本もがんばって読んでみたいと思います。
(現在 下諏訪中一年)

はじめをつける



社中2年 中村 聖吾

いよいよ三年生。まず個人の

目標としては、授業と休み時間のけじめをしっかりつけようと思います。昨年度はそのけじめができず、授業中に先生に怒られたことも何回かありました。授業をまじめに受けたいです。

とは、自分自身に力をつけるためであり、授業を教えに来てくださった先生への礼儀でもあります。学校生活の中心である授業へのけじめを大切にしていきたいです。
次に生徒会長としての取組について。生徒会の五本柱のひとつである挨拶に取り組むことで、新学期のよいスタートがきれると考えます。授業の始めと終わりの挨拶、友人や先生方への朝や帰りの挨拶など、自分から大きな声を出して、クラス、学年、全校そして地域へと広めていきたいです。
(現在 三年)



挨拶が響く学校に



中2年 下みすい 三廉 将哉

今春、僕は最上級生として、また下諏訪中の校友会長として、新たなスタートを切りました。
正直、校友会長といってもまだまだで、何をしようか分からないので、戸惑うことが多いです。副会長や総務会などの助けなしでは仕事を進めることができませんが、こればかりは一步ずつ確実にいくしかないのです。焦り過ぎず前進していきたいと思っています。

僕は、挨拶が響く学校づくりに力を入れています。今の学校は、自分から進んで挨拶する人と、できない人の差が大きいと思います。誰にでも挨拶ができるようにすることが、校内に限らず下諏訪町に広がり、町全体が気持ちよくなっていくことにつながると 생각합니다。自分を信じ、仲間を信じ、がんばります。
(現在 三年)

家庭読書も挨拶も、

家族・地域・町の温かさにつながる

社会教育委員会では「家庭読書を中心に、読書を通じての親子のふれ合い、コミュニケーションをいかに図るか」に取り組んできました。
家庭や社会の教育向上に向け、教育委員と意見交換を行いました。



- ・教育委員 朝貝教育委員長・高木職務代理・依田・荒木委員
- ・社会教育委員 高橋会長・小口職務代理・宮坂(体育指導委員会副会長) 河西(図書館協議会会長)
- ・鮎澤(公民館運営審議会会長) 竹中(博物館協議会会長) 金丸(青少年協議会会長) 曾根原(学校長)
- ・古屋・上野(社会教育指導員) 委員・事務局(小口・伊藤)

教育長 社会教育委員の皆さんは、活動に関わり感じたことも多かったと思う。ごつくばらんに話してください。

宮坂 自分自身が体育指導員という立場のため、大変勉強になった。資料にも書いてある通り、家庭読書に賛同できない人はいかに巻き込んでやっていけるかが今後大事になってくる。

河西 しくみとして、このように「家庭読書の日」ができて、とてもいいことだと思う。今後はこれを、どうPRし町内に浸透させ、行動を起こしていくしくみを作っていくかが必要だ。中学生への読み聞かせなども最初は批判があったが、何回もやってみることが大事。一回だけでは響かないかもしれないが、何回も重ねてやってみる。その結果、一人でも多くの人の心に響いてくれたらと思う。

鮎澤 一年間活動させていただいて感じたこ

とは、活動がそれぞれの学校・保育園でしっかり位置づいていること。読書の活動も、図書館といいつながりをもっている。各学校・保育園ボランティアも頑張っていて、地域に活動が根ざしつつあると感じる。親子のつながりが各家庭に育っているのではないか。読書をひとつの起点として、これからそういったつながりが広がっていくべき。

教育長 家庭読書が地域に根ざしつつある。「月一回の家庭読書を二回にすればいいのではないか」といった意見もある。先ほど言われたように賛同できない人はいかに取り込んでいくか。全体の風土が高まってきている中で、上から目線で押し付けるやり方ではなく、今後さらに保護者から「やってみよう」と自然と出てくるような風土に高めていくことが大事だ。

金丸 学校の朝読書を見学させていただいた。

竹中 PR不足という話もあるようだが、最近広報誌を意識して見ていると、読書活動や図書館のこともよく見るようになった。そういった面では他市町村と比べると、下諏訪町は頑張っているなとも感じ

最初は中学生の朝読書はどうかと思っていたが、どの生徒も真剣に聞いて印象深かった。時間がなくて家庭読書に取り組めないという場合、読み聞かせで聞いた本の感想だけでも、子どもが家に帰っても親子のコミュニケーションが深まるのではないか。社会教育委員としては、家庭読書をどう広めていくかを考えることが役目だと感じている。今度青少年協会のフリートークキングという親子の問題を話し合うイベントがあるが、そこで家庭読書の話も取り上げていけたらと考えている。